

第7回経営ビジョン策定検討部会 議事録

日 時 平成30年1月15日(月) 午後3時30分から午後5時30分まで

場 所 京都市上下水道局本庁舎 別館1階大会議室

出席者(本市職員を除き五十音順,敬称略)

1 委員

神子 直之 立命館大学教授(理工学部)
小林 千春 同志社大学教授(経済学部)
小林 由香 税理士
中嶋 節子 京都大学教授(大学院人間・環境学研究科)
西村 文武 京都大学准教授(大学院工学研究科)
江淵 史明 京都市上下水道局総務部経営ビジョン策定・防災担当部長

2 京都市上下水道局

総務部経営政策担当部長,総務部総務課長,総務部経営企画課長,
総務部職員課人材育成担当課長,総務部経理課長,
総務部お客さまサービス推進室業務管理担当課長,技術監理室監理課長,
技術監理室監理課担当課長,水道部管理課担当課長,下水道部計画課長,
事務局(総務部経営企画課)

次 第

1 開 会

- (1) 出席者確認
- (2) 進行の確認,会議の公開について

2 議 題

次期経営ビジョン冊子案について

3 閉 会

内 容(議題に係る主な意見)

目次について

- TOPIC ばかりが目立つので, TOPIC だけの目次を作るなど工夫をした方がよいのではないか。
また TOPIC について,分量が他よりも多く,内容もビジョン全体に関わるものなので, TOPIC 以外の位置づけでもよいのではないか。

第2(京都市の水道・下水道)について

- p16の3(1)の2枚の写真について,市内の写真か市外の写真か,撮影場所を記載した方がよい。

第3章(事業を取り巻く背景・課題)について

- p22 経営評価結果の「老朽化」の項目について、下段の文章部分に、「老朽化」の指標値が低いことは、老朽化が進んでいることを示しているとの説明があるが、文章で書くのではなく、グラフの項目名を「老朽化の改善」「老朽化に対する取組」などに変更した方がよいのではないか。

第4章(ビジョンの全体像)のうちp30,31のイラストについて

- すみとくんのコメントで、「幅広く事業を展開」という言葉を使用しているが、この表現は今後の事業の方向性と異なるのではないか。「効率的な」など、別の表現を検討してみてはどうか。
- 琵琶湖疏水が浄水場を通ったあと山に戻っているが、実態に合わせた方がよい。
- 水道水と下水で色を変えているが、下水のオレンジがあまり目立たないように思う。また、水道水と雨水で色を微妙に変えているが、もう少し違いを分かりやすくした方がよい。
- 家のイラストを町屋風にするなど、京都らしさを出した方がよい。
- 琵琶湖と大阪湾の魚が同じイラストであることが気になる。
- 雨水浸透ますと雨水貯留タンクのキャラクターは、事業に直接関係のあるキャラクターなので、もっと効果的に使用してはどうか。
- 全体として京都市の事業ということがわかるよう工夫してほしい。
- 浄水場と水環境保全センターは大事な施設だと思うが、同じイラストでよいのか。雰囲気が変わるよう工夫した方がよいのではないか。
- 水環境保全センターは広く一般に認識されているのか。下水処理場と括弧書きで記載するなどしてはどうか。
- マンホールトイレや大雨への対応など、災害に対する取組なども記載してはどうか。

第5章(取組の方向性(視点))について

- 水質について、記載が少ないように思う。市民としては水質がどう改善するのか、このままなのか気になると思う。京都市の水道水の水質といった内容を記載してもよいのではないか。
- 水道水には水質基準があり、それを守らないといけないということが意外と知られていないように思う。もっと積極的にアピールしてはどうか。
- p40の上段のグラフの横軸の表記について、年代が縦になっており見づらいので工夫してほしい。
- p40,41について、深刻な内容にも関わらず、マスコットキャラクターの表情が笑顔なので、もう少し困った表情のイラストを使用した方がよい。
- 琵琶湖・淀川水系の中流域の大都市として、責任をもって下流域の水資源も守っているということをもっとアピールした書き方にした方がよいのではないか。
- p49の地図において、奈良線の線路の表記はあるが、名前が記載されていないので、他と同様に記載した方がよいのではないか。

第5章（取組の方向性（視点））について

- p55において、広報の取組として記載しているものの中で、子供向けの水道水のPRなど社会貢献のような取組があると思う。社会貢献と広報は別物だと思うので、社会貢献・教育貢献などの切り口で記載してみてもどうか。
- p58, 59「琵琶湖疏水の魅力向上・発信について」に関して、琵琶湖疏水のトンネルの出入口の一部は国の史跡に指定されており、これは市民の誇りになることだと思うので、もっと強調してはどうか。

第5章（取組の方向性（視点））について

- p61の目標について、対象資格の一つである技術士などは、民間の人からも評価される資格であると思う。また、学生の職業選択の際にもアピールになると思う。こういった点から、可能であれば、具体的に対象資格を記載してもらえればと思う。
- p61の京都市上下水道サービス協会に係る記載について、緊急性がある工事や技術継承の必要がある事業などに特化し業務を行う団体として位置づけ、民間事業者との棲み分けを明確にする必要があるのではないかと。
- p61について、市内の事業者に機会を与えることも大事だとは思うが、消費者の観点から見れば、価格で決めることも大事だと思うので、書き方を変えた方がよいと思う。
- p61について、建築業界では、技術的な継承が近場で出来ていることは重要なので、市内の業者に積極的に機会を与えることは、賛成である。市内業者と一緒に進めていくという記載の仕方にしてはどうか。
- p66~73について、「利益」という言葉を多用すると「もうけ」という印象を与えるので、「財源」という言葉に置き換えてはどうか。
- p72, 73については、内容自体は正しいと思うが、「利益」という言葉に対応させるのであれば、「収益」という言葉を使うなど、言葉の使い方をもう少し精査する必要があるのではないかと。また、長期的な視点に立って財政基盤の強化を進めるに当たっては、資産の売却益や運用益ではなく、事業収益を中心に確保していくことが必要かと思うので、「安定的した事業収益の確保」とするのが適切かと思う。
- p73の図について、もう少し理解しやすくなるよう工夫してほしい。
- p72, 73で「減価償却費」を「分割した過去の整備費」と表現しているが、「減価償却費」という言葉は割と一般的な言葉であると思うので、そのまま使用した方が理解しやすいのではないかと。

これまで部会の総括

- 全体として、現行のビジョンよりさらに進歩し、現状認識をした上で、課題を整理しており、分かりやすくなったと思う。
- ビジョンで目標とした内容を着実に進めていくことが大事になってくると思う。また長期的には、水需要の動向が収益に大きな影響を与えることになるので、客観的なデータを活用して、より精度の高い予測をしていくことが大事だと思う。今後、市民の事業への理解も重要になってくるので、京都市から発信してだけでなく、市民とコミュニケーションをとって

ほしい。また公民連携や広域化・広域連携なども大事になってくると思うので、そのあたりについても期待している。

- 行政が行う事業について、どんなことであっても隠す必要はなく、皆で共有していくことが重要だと思っている。今回のビジョン策定過程において、京都市からそのスタンスが感じられたので、よかったと思う。
- 水道事業は、なくてはならない分野であることは明らかであるが、京都市として、どうやって京都らしさを出していくかということが重要であると思う。水は都市の文化の一つだと思うので、水を単に供給するのではなく、文化を供給しているという矜持を持って事業に取り組んでいただければと思うし、市民も京都の水について、考える機会を持っていかなくてはいけないと思う。
- ビジョンは、受益者のためのものではあるが、職員のバイブルとして、よりよい形で継続して活用してもらえればと思う。計画期間が10年間なので、ビジョンの期間内に、新しい職員も多く入ってくると思う。上下水道局が魅力的な職場に見えるよう、活用してもらえればと思う。

(以 上)